

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 42 No. 4
August 2017**

毒理学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

認定トキシコロジスト資格認定試験の国際化に向けての対応	49
第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	51
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	53
認定試験受験資格のための評点表	55
第45回日本毒性学会学術年会のご案内(第1報)	57
生体金属部会主催の学術集会開催のお知らせ 「メタルバイオサイエンス研究会2017」	58
2018年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	60
2018年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	61
2018年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	61
第44回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	62
第56回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	63
第56回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	64

その他のお知らせ

フォーラム2017: 衛生薬学・環境トキシコロジー	65
第24回日本免疫毒性学会学術年会	65
第27回日本医療薬学会年会	66
第34回日本毒性病理学会総会及び学術集会	66

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

認定トキシコロジスト資格認定試験の国際化に向けての対応

日本毒性学会

教育委員会委員長

広瀬 明彦

認定試験小委員会委員長

古川 賢

JSOT 認定トキシコロジスト制度はトキシコロジストのモチベーションを高め、毒性試験の試験責任者等のトキシコロジストの質の向上を図り、毒性学を発展させることを目的として、日本毒性学会が1998年より開始した資格認定制度です。JSOT 認定トキシコロジスト資格認定試験では毎年70名前後が受験され、2017年現在、認定トキシコロジスト数は556名となり、毒性学の専門家として我が国における化学物質の安全性評価および医薬品創生などの研究や事業活動に大きく貢献しております。

昨今の毒性学分野における研究事業活動のグローバル化の潮流の中において、JSOT 認定トキシコロジストが国際基準の資格として広く認知されるために、本制度の国際化を進めて行く必要があります。そこで認定試験小委員会では、海外からの受験者のために英語受験を可能とする体制を整えてまいりましたが、2017年の第20回認定トキシコロジスト資格認定試験よりその実施可能となりました。今後は資格認定試験が英語でも受験できることを近隣諸国に周知し、海外におけるJSOT 認定トキシコロジストを増やすことで、本資格の国際化を図ってゆきたいと思っております。

第 20 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

広瀬 明彦

認定試験小委員会委員長

古川 賢

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規程に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

今回より、英語での受験を可能といたしますので、出願時に英語での受験希望の有無を確認いたします。

1. 日 時

2017年10月1日(日)(9:15~16:30)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス 16号館
(東京都品川区旗の台1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2017年7月3日(月)~8月14日(月)(必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・会員歴：出願時にJSOTの会員であること

・研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム内

TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555

E-mail: jsotq@jsot.jp

第 20 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真貼付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入下さい)

日本語受験, 英語受験(希望する方に✓を入れてください)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな
氏名： _____

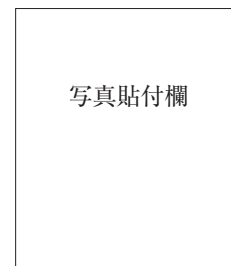
会員番号： _____

生年月日： 西暦 年 月 日 (歳)

所属機関： _____

職名： _____

学歴： _____



高等学校卒業
 短期大学等卒業
 4年制大学等卒業
 6年制大学等卒業

(該当する□にチェック)

卒業年	学校名および学部学科等
西暦 年 月	
西暦 年 月	
西暦 年 月	
卒業後 年 カ月	注：大学院を含まない

毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間：

期間 (西暦)	年数	職歴, 大学院等
年 月 ~ 年 月	年 カ月	
年 月 ~ 年 月	年 カ月	
年 月 ~ 年 月	年 カ月	
年 月 ~ 年 月	年 カ月	
年 月 ~ 年 月	年 カ月	
通算 年 カ月		注：修学期間, 就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない

* 受験票送付先： 所属機関 自宅

〒

住所：

電話：

FAX：

E-mail：

(お持ちの方は必ずご記入下さい)

* 緊急連絡先：

切り取り線

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏 名：

所属機関：

種 別	評 点 項 目	評 点
論 文	毒性学関連論文 ^{1), 2)}	
学会活動	発表 ¹⁾	
	JSOT 学術年会	
	参加	
	発表 ¹⁾	
講習会等	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	
	参加	
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
	合 計	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

切り取り線

第45回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

（年会ホームページ：<http://jsot2018.jp/>）

1. 会期

2018年（平成30年）7月18日（水）～20日（金）

吉成 浩一（静岡県立大学）

和久井 信（麻布大学）

渡部 一人（中外製薬株式会社）

2. 会場

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

TEL：06-4803-5585

URL：<http://www.gco.co.jp/>

3. テーマ

インタラクティブ

毒性研究とリアルワールドへの応用

4. 年会長

務台 衛（田辺三菱製薬株式会社）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

石塚真由美（北海道大学）

小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所）

小野寺博志（医薬品医療機器総合機構）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（労働者健康安全機構）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

熊谷 嘉人（筑波大学）

黒川 洵子（静岡県立大学）

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

渋谷 淳（東京農工大学）

鈴木 睦（協和発酵キリン株式会社）

高崎 涉（第一三共株式会社）

田保 充康（中外製薬株式会社）

苗代 一郎（医薬品医療機器総合機構）

中村 和市（北里大学）

橋爪 孝典（大阪大谷大学）

姫野誠一郎（徳島文理大学）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

福井 英夫（武田薬品株式会社）

福島 民雄（シオノギ製薬株式会社）

福本真理子（北里大学）

古川 賢（日産化学工業株式会社）

堀井 郁夫（ファイザー、昭和大学）

堀本 政夫（千葉科学大学）

本間 正充（国立医薬品食品衛生研究所）

山田 久陽（大正製薬株式会社）

横井 毅（名古屋大学）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2018年1月から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp/>

7. 優秀研究発表賞

2018年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 特別企画

年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，企業研究者のキャリア形成支援プログラム，市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示を募集します。詳細については追ってご案内します。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://jsot2018.jp/>

11. 年会事務局

〒335-8505 埼玉県戸田市川岸2-2-50

田辺三菱製薬株式会社 創薬本部安全性研究所

事務局長：大山 直樹

事務局次長：久米 英介，田中 雅治

TEL：048-433-2770 FAX：048-433-8790

E-mail：secretariat@jsot2018.jp

12. 同時期開催

第40回日本中毒学会総会・学術集会

2018年7月20日（金）～7月21日（土）

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

生体金属部会主催の学術集会開催のお知らせ

日本毒性学会の最初の部会として「生体金属部会」の設立が本年6月に理事会で承認されました（毒性学ニュース Vol. 42 No. 3 p 27 参照）。本部会は、金属の毒性のみならず生理作用なども対象としており、「金属と生体との係わりに関する研究」に携わる研究者間の交流と情報交換の場を提供することによって金属研究のさらなる発展に貢献することを目的としています。このたび、本部会主催の第1回学術集会として以下のように「メタルバイオサイエンス研究会 2017」を10月に岡山で開催することになりました。奮って御参加くださいますよう、御願い申し上げます。

日本毒性学会生体金属部会
部会長 佐藤 政男

「メタルバイオサイエンス研究会 2017」

主催 日本毒性学会 生体金属部会
テーマ 生体金属の陰と陽
会期 2017年10月13日（金）、14日（土）
会場 岡山国際交流センター
〒700-0026 岡山市北区奉還町 2-2-1
TEL：086-256-2905
岡山駅西口より徒歩5分
2階国際会議場
7階多目的ホール（ポスター会場）

実行委員長 浅沼 幹人
(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)

プログラム概要

シンポジウム 1

「メタルバイオサイエンス研究の最前線と展望」

シンポジウム 2

「生体金属およびその関連分子の生理、毒性から病態への関与（仮）」

ミニシンポジウム 3

「金属関連分子と神経病態（仮）（岡山脳研究セミナー合同シンポ）」

特別講演 / 会長講演（未定）

一般口演発表、ポスター発表

詳細については、追ってメタルバイオサイエンス研究会 2017 ホームページ（下記）でご案内致します。

演題申込み期間

2017年6月26日（月）～2017年8月4日（金）

演題申込み方法

研究会ホームページから演題申込書をダウンロードし、研究会事務局 mbs2017@okayama-u.ac.jp へメールに添付のかたちで、8月4日（金）までにお申し込みください。タイトルを「メタルバイオサイエンス研究会 2017 演題申込」として下さい。

参加登録

事前参加登録（9月22日まで）

一 般	6,000 円
学 生	3,000 円

当日参加登録（9月23日以降）

一 般	7,000 円
学 生	4,000 円

懇親会 2017年10月13日（金）

ANA クラウンプラザホテル岡山
(岡山駅西口より徒歩1分)

一 般	8,000 円
学 生	3,000 円

参加・懇親会登録方法 研究会ホームページから参加登録書をダウンロードし、お一人ずつ研究会

事務局 mbs2017@okayama-u.ac.jp へメールに添付のかたちで、9月22日（金）までにお申込下さい。タイトルを「メタルバイオサイエンス研究会 2017 参加登録」として下さい。併せて、下記のゆうちょ銀行振込口座に参加費と懇親会費を9月22日（金）までにお一人ずつお振込み下さい。なお、9月23日以降は当日参加登録の金額をお振込み頂くか、当日お支払い頂きます。

振込先

〈ゆうちょ銀行から〉

郵便振替口座：01360-3-92129

加入者名：メタルバイオサイエンス研究会 2017

（毒性学ニュース8月号に振込用紙が添付されています）

〈他行から〉

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

支店：一三九（イチサンキュウ）店（店番139）

口座番号：当座 0092129

事務局

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経機構学分野

宮崎 育子

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

TEL：086-235-7097

研究会事務局メールアドレス

mbs2017@okayama-u.ac.jp

メタルバイオサイエンス研究会 2017 ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/mnb/mbs2017.html>

2018 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格: 日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格: 日本毒性学会理事 1 名。

表彰: 授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演: 受賞者 (或いは代理人) は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦: 推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛 (事務局) に電子メールで提出する。

- ・ 推薦書 (候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの)
- ・ 推薦理由 (1,000 字以内)
- ・ 特別賞の対象となる業績目録: 原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先: jsotHQ@jsot.jp
(日本毒性学会事務局)

推薦締切: 2017 年 12 月 31 日 (土)

2018 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2018 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2018 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000 字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2017 年 12 月 31 日（土）

2018 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2018 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2018 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000 字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2017 年 12 月 31 日（土）

第 44 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 44 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 44 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

第56回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① – Continuing Education Courses に参加して –

株式会社ボゾリサーチセンター 安全性・薬理研究部 八舟 宏典



日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業として、第56回 SOT 学術年会に参加させて頂きました。学術年会は2017年3月12日から16日の日程で、メリーランド州ボルチモアのボルチモアコンベンションセンターで開催され、私は教育コースの「Technologies and Applications of Stem Cells for Use in Toxicology」および「Detecting Cancer Risk in Drugs: Design, Conduct, and Interpretation of Carcinogenicity Studies for Regulatory Approvals」の2コースを受講させて頂きました。

前者のコースでの参加者は学生などの比較的若い研究者だけでなく、年配の方々の姿もみられ、再生医療を研究する上で非常に注目を集めているテーマであることが実感されました。内容としては、ES細胞やiPS細胞の性質、形態、作製方法などの基礎的な内容に始まり、nicheな環境やエピジェネティックな制御が紹介され、ヒト病態モデルの構築、ヒト由来iPS細胞モデルにおける毒性メカニズムの評価手法についても具体例を挙げての説明があり、非常に参考になりました。また、Organ-on-a-chipを用いた人工臓器の再現についての技術は新規のヒト由来幹細胞を用いた*in vitro*の試験評価系の構築として期待できるものであると感じました。

後者のコースでは、FDAなど米国の規制当局からのがん原性試験の試験デザイン、アプローチの方法などの解説があり、rasH2マウスを用いた短期発がん性試験のデザイン、既存物質の検出力、また病理組織の背景についての紹介がありました。また、規制当局のがん原性試験についての見解を聞くことができたのは非常に有益でした。

今回、SOTに派遣し、教育コースを受講させて頂き、様々な分野の最新情報を収集することができました。国際学会に参加し最新の毒性学の情報を収集するだけでなく、その分野の先端の研究をされている先生方の話しを直に聞ける点でも非常に貴重な経験をさせて頂くことができました。最後に、今回の教育コースへの参加の機会を与えて頂いた日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また参加にあたり社内業務のフォローをして頂いた皆様に深く感謝申し上げます。



第56回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② — Continuing Education Courses に参加して —

科研製薬株式会社 薬物動態・安全性部 真田 尚和



第56回 SOT 学術年会は、メリーランド州ボルチモアの Baltimore Convention Center で開催されました。私は日本毒性学会の SOT 教育コース派遣事業の一環として「Current Principles for Nonclinical Chronic Toxicity/Carcinogenicity Testing of Environmental Chemicals」および「Health-Based Limits for Toxicological Risk Assessment: Setting Acceptable Daily Exposures for Pharmaceutical and Chemical Safety」の2つのコースを受講させていただきました。当期間は季節外れの寒波に見

舞われましたが、学会には非常に多くの研究者が参加し、熱意のある議論が行われていました。前者の教育コースでは、発がん性試験デザインや NTP を例に挙げた病理評価プロセス等の実用面での教育に加えて、レギュラトリーからの発がん性あるいは慢性毒性試験の評価、IARC における発がん性物質の分類まで、各分野の講師による幅広い内容を受講することができました。後者では、化学物質の共有製造施設における交叉汚染防止の観点から、一日許容曝露量を使用したリスク評価に関する教育でした。従来のリスク評価では、あらゆる化合物に適用できるデフォルト値が広く用いられてきましたが、本コースでは、科学的根拠に基づいた化合物毎のリスクベースアプローチの重要性が示されました。5名の講師から、一日許容曝露量を求める上での留意点として、①毒性学的データの評価、②トキシコキネティクスあるいはトキシコダイナミクスの情報を用いた補正係数の化合物専用化、③異なる投与経路への外挿等を体系的に説明いただき、非常にわかりやすくリスクアセスメントに関する理解を深めることができました。

今回、SOT 学術大会に参加させていただき、教育コースばかりでなく学術講演等を聴講することができ大変勉強になりました。また、業界最先端の情報が得られたことや、海外の研究者との情報交換等、国際学会ならではの大変貴重な経験をすることができました。最後に、このような機会を与えて下さった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また、SOT 参加にあたりご協力いただきました関係者の方々に、心よりお礼を申し上げます。



その他のお知らせ

フォーラム 2017 :
衛生薬学・環境トキシコロジー

会議のテーマ 食の安全性を確保するために
主催機関 日本薬学会 (環境・衛生部会)
協賛および後援機関
日本毒性学会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会,
日本食品化学学会, 日本食品衛生学会 他

代表責任者
実行委員長 永田 清
(東北医科薬科大学薬学部 環境衛生学教室・教授)

会期 平成 29 年 9 月 1 日 (金), 2 日 (土)
会場 東北医科薬科大学
(宮城県仙台市青葉区小松島 4-4-1)

内容
特別講演: 佐藤 洋 先生 (食品安全委員会)
招待講演: 根岸 正彦 先生 (米国 NIEHS/NIH)
教育講演: 山添 康 先生 (食品安全委員会)
フォーラム I ~ VI の 6 討論課題
日韓次世代シンポジウム
一般演題 (口頭発表とポスター 合計 約 200 題)

登録期間
事前参加登録受付期間 5 月 1 日 (月) ~ 7 月 20 日 (木)
演題登録期間 5 月 1 日 (月) ~ 6 月 2 日 (金)
要旨登録期間 5 月 1 日 (月) ~ 6 月 10 日 (土)

参加予定数 約 400 名 (国内 370 名, 国外 30 名)

事務局
〒 981-8558 仙台市青葉区小松島 4-4-1
東北医科薬科大学薬学部 環境衛生学教室内
「フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー」事務局
電話: 022-727-0134
FAX: 022-275-2013 (代)
E-mail: forum2017@tohoku-mpu.ac.jp
ホームページ: <http://www.senkyo.co.jp/eiseiforum2017>

第 24 回日本免疫毒性学会学術年会

年会長 中村和市 (北里大学)
日時 2017 年 9 月 4 日 (月), 5 日 (火)
会場 北里大学獣医学部 B 棟 1 階講義室

日本毒性学会員の参加費 (協賛学会員として)
8,000 円 (事前), 10,000 円 (当日)

ホームページ <http://jsit2017.jp/>

概要
メインテーマを『「免疫亢進」と「免疫抑制」の新たな考え方』としました。近年, 新たな免疫担当細胞が同定, 定義され, 現象面の「免疫亢進」と「免疫抑制」をあらためて見直し, 妊娠における免疫寛容破綻の機序, 自己免疫発現の機序などに関して, これまでにない新たな視点で臨みます。

内容
特別講演 1
「特異体質性薬物肝障害の免疫学的機序」
横井 毅 (名古屋大学大学院)
特別講演 2
“Immunotoxicity Assessment of Biopharmaceuticals”
Danuta Herzyk (Merck Research Laboratories)
教育講演
「ウイルス感染が誘導する自己免疫疾患」
南谷武春 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
シンポジウム
「生殖免疫毒性 - 妊娠の成立・維持のための免疫機構とその破綻 -」
前田洋佑 (北里大学), 亀谷美恵 (東海大学), 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋 (富山大学), 白砂孔明 (東京農業大学)
試験法ワークショップ
「バイオ医薬品 (タンパク製剤) の安全性評価法の最新動向」
石井明子 (国立医薬品食品衛生研究所), 真木一茂 (医薬品医療機器総合機構), 久保千代美 (中外製薬株式会社), 間 哲生 (第一三共株式会社)
ランチョンセミナー
日本チャールス・リバー (株), (株) 新日本科学
市民公開講座 (2017 年 9 月 3 日 (日))
「コメの安心と安全 ~ カドミウムに関する調査から得られたこと ~」
講師: 香山不二雄 (自治医科大学)

事務局
北里大学獣医学部毒性学研究室 鎌田 亮
E-mail: secretariat@jsit2017.jp

第27回日本医療薬学会年会

メインテーマ

医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成～医療人としてより輝くために～

会期 2017年11月3日(金・祝)～5日(日)

会場 幕張メッセ

(〒261-8550 千葉市美浜区中瀬2-1)

アパホテル&リゾート東京ベイ幕張

(〒261-0021 千葉市美浜区ひび野2-3)

ホテルニューオータニ幕張

(〒261-0021 千葉市美浜区ひび野2-120-3)

年会長

大森 栄

(信州大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

組織委員長

山折 大

(信州大学医学部附属病院 准教授・副薬剤部長)

副組織委員長

青山 隆夫

(東京理科大学薬学部 教授)

石井伊都子

(千葉大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長)

望月 真弓

(慶應義塾大学 薬学部教授・病院薬剤部長)

年会事務局

信州大学医学部附属病院 薬剤部

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

運営事務局

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

コンベンション2局内

〒105-8335 東京都港区芝3-23-1

セレスティン芝三井ビルディング13階

TEL: 03-5657-0610

FAX: 050-3730-3977 (グリーン FAX)

E-mail: 27jsphcs@jtbcom.co.jp

年会ホームページ

<http://convention.jtbcom.co.jp/27jsphcs/index.html>

プログラム (予定)

年会長講演, 平成29年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会/学術フォーラム, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, 受賞講演, 一般演題(口頭発表・ポスター発表), 共催セミナー, 併設医薬品・医療機器展示, 書籍展示, 市民公開講座, その他

一般演題募集のご案内

受付期間

2017年4月13日(木)～2017年6月6日(火)11:00(予定)

一般演題(口頭発表・ポスター)の申込みは, 本会ホームページ[一般演題募集]より, オンライン登録にて受け付けを致します。

演題登録手順などの詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬にご案内致しますので, ご確認ください。

事前参加登録受付のご案内

受付期間

2017年4月13日(木)～2017年9月5日(火)(予定)

事前参加登録の申込みは, 本会ホームページ[事前参加登録]より, オンライン登録にて受け付けを致します。

参加登録費などの詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬にご案内致しますので, ご確認ください。

会期中の宿泊手配について

本会にご参加いただく皆様の会期中のご宿泊手配を株式会社JTBコーポレートセールス法人営業横浜支店よりご案内致します。

宿泊申込みは, 2017年4月13日(木)より, 開始する予定です。

詳細は, 本会ホームページにて, 4月上旬頃にご案内致しますので, ご確認ください。

第34回日本毒性病理学会総会及び学術集会

年会長 吉見 直己

琉球大学大学院 医学研究科 腫瘍病理学講座 教授

会期 2018年1月25日(木)・26日(金)

1月24日(水)には毒性病理学専門家認定試験における問題解説, 及び第30回スライドカンファレンスを開催予定

会場 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

〒900-0016 沖縄県那覇市前島3-25-1

テーマ 「安心・安全をめざした基礎医学から臨床医学への橋渡し」

ホームページ <http://www.okinawa-congre.co.jp/34jstp/index.html>

事務局

琉球大学大学院 医学研究科 腫瘍病理学講座

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

TEL: 098-895-1120 FAX: 098-895-1406

運営事務局

株式会社沖縄コングレ

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地3-1-1 日本生命那覇ビル

TEL: 098-869-4220 FAX: 098-869-4252

E-mail: 34jstp@okicongre.jp

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功勞会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 望月喜多司記念賞（業績賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日 制定
平成26年 7月 1日 最終改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合は筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

- (10) Supplemental Data: 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線

B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体(細胞)応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省などの公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター(日本語可)を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿(本文および表)ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと(消費税別)。別刷は別途申し受ける(有料:実費)。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料(円/頁)	カラー写真 ^b (円/頁)
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a: 4頁目からは16,000円/頁。 ^b: 図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称:Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイト公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter : 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report : 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたもので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview : 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬毒物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft Word ファイルまたはPDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は「採用取り消し」とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion），図表の説明，および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語，図，表，引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

平成 9 年 7 月 24 日 制定
平成 27 年 2 月 23 日 最終改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- 書類審査基準は次の通りとする。
 - 出願時に JSOT の会員であること。
 - 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

(ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。

(ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

(4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。

(5) 受験料は 3 万円とする。

(6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

(1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。

(2) JSOT 認定トキシコロジストに適切でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日 制定
平成 27 年 2 月 23 日 最終改定

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
 2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
 3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - (4) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
 4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
 5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
 6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
 7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
 8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
 9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
 10. 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
 11. 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。
- 付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, 日本安全性薬理研究会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会, 日本産業衛生学会, 日本獣医学会, 日本実験動物学会, 日本製薬医学会, 日本先天異常学会, 日本中毒学会, 日本毒性病理学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本免疫毒性学会, 日本薬学会, 日本薬物動態学会, 日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

石川 栄世	今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣
池田 正之	加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄
井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗	高橋 道人
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄
長尾 拓	福島 昭治	津田 修治	吉田 武美
堀井 郁夫			

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	田中 悟	大沢 基保	今井 清
降矢 強	玄番 宗一	松澤 利明	唐木 英明
仮家 公夫	暮部 勝	野村 護	牧 栄二
堀井 郁夫	大野 泰雄	山添 康	上野 光一
三森 国敏	佐神 文郎	遠山 千春	

[賛助会員]

旭化成ファーマ(株)	味の素製薬(株)	(五十音順)
あすか製薬(株)	アステラス製薬(株)	
アスピオファーマ(株)	(株)イナリサーチ	
エーザイ(株)	(株)LSIメディエンス	
大塚製薬(株)	杏林製薬(株)	
小野薬品工業(株)	興和(株)	
協和発酵キリン(株)	塩野義製薬(株)	
(株)三和化学研究所	(公財)食品農医薬品安全性評価センター	
昭和電工株式会社	ゼリア新薬工業(株)	
(株)新日本科学	大正製薬(株)	
第一三共(株)	大鵬薬品工業(株)	
大日本住友製薬(株)	田辺三菱製薬(株)	
武田薬品工業(株)	中外製薬(株)	
(一財)生物科学安全研究所	(株)DIMS 医科学研究所	
帝人ファーマ(株)	トアアエイヨー(株)	
東レ(株)	(一社)日本化学工業協会	
日本新薬(株)	ファイザー(株)	
日本たばこ産業(株)	Meiji Seika ファルマ(株)	
(株)ボゾリサーチセンター	ライオン(株)	
持田製薬(株)		

[役員] (2016 ~ 2017 年度)

理事長	永沼 章	石塚真由美	小川久美子
理事	天野 幸紀	小野寺博志	鍛冶 利幸
	小椋 康光	鈴木 睦	高崎 渉
	佐藤 雅彦	広瀬 明彦	福井 英夫
	中村 和市	務台 衛	山田 久陽
	眞鍋 淳	吉田 緑	和久井 信
	横井 毅		

監事

落合 敏秋 姫野誠一郎

[学術年会長]

第44回 (2017年) 熊谷 嘉人
第45回 (2018年) 務台 衛

[委員会] (2016 ~ 2017 年度)

- 総務委員会
- ◆ 連携小委員会
- ◆ 評議員選考小委員会
- ◆ 名誉会員および功労会員選考委員会
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆ JTS 編集委員会
 - ◆ FTS 編集委員会
 - ◆ Executive Editor 小委員会
 - ◆ 田邊賞選考小委員会
- 教育委員会
 - ◆ 生涯教育小委員会
 - ◆ 基礎講習会小委員会
 - ◆ 認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆ 学会賞等選考小委員会
 - ◆ 特別賞等選考小委員会
 - ◆ 技術賞選考小委員会
 - ◆ 望月喜多司記念賞選考小委員会
 - ◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会
 - ◆ 学術小委員会
 - ◆ 広報小委員会

● 印: 常置委員会 ◆ 印: 小委員会

務台 衛 (委員長)	菅野 純	熊谷 嘉人
鍛冶 利幸	中村 和市	永沼 章
佐藤 雅彦	眞鍋 淳 (委員長)	
広瀬 明彦	中村 和市	広瀬 明彦
菅野 純 (委員長)	小川久美子	
山田 久陽	横井 毅 (委員長)	
小川久美子	小野寺博志	鈴木 睦
中村 和市	務台 衛 (委員長)	
(委員非公開)	中村 和市 (委員長)	
小川久美子	福井 英夫 (委員長)	
鍛冶 利幸 (委員長)	永沼 章 (委員長)	
永沼 章 (委員長)	永沼 章 (委員長)	
矢本 敬 (委員長)	(副委員長以下非公開)	
広瀬 明彦 (委員長)	鈴木 睦	古川 賢
鈴木 睦 (委員長)	五十嵐勝秀	石塚真由美
五十嵐勝秀	姫野誠一郎	義澤 克彦
高崎 渉 (委員長)	小野寺博志 (副委員長)	桑原 正貴
朝倉 省二	古川 賢 (委員長)	和久井 信
古川 賢 (委員長)	(副委員長以下非公開)	
佐藤 雅彦 (委員長)	吉田 武美 (委員長)	
(委員非公開)	佐藤 雅彦 (委員長)	
斎藤 幸一 (委員長)	(委員非公開)	
佐藤 雅彦 (委員長)	熊谷 嘉人 (委員長)	
(委員非公開)	天野 幸紀 (委員長)	
天野 幸紀 (委員長)	石塚真由美	小椋 康光
高橋 祐次	山田 久陽	高崎 渉
久田 茂 (委員長)	小椋 康光 (副委員長)	吉成 浩一
小椋 康光	伊藤 志保	橋本 愛

★その他関連の委員会

- IUTOX President 菅野 純
- ASIATOX 担当 熊谷 嘉人

2017年8月1日 印刷

2017年8月1日 発行

発行人 永沼 章
編集人 鍛冶 利幸
発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161